

開講学科	建築学科	実務家科目				前橋工科大学 シラバス
		—				
科目名	建築造形論	標準対象年次	選択/必修	科目コード		
		2年次	選択	14100501		
担当教員	臼井敬太郎	単位数	学期	曜日	時限	
		2単位	前期	水曜日	1時限	
授業の教育目的・目標	<p>目的：象徴的な建築のあり方が問われる特殊解としての建築造形と、機能的な建築の佇まいが問われる普遍解としての建築造形について、両者を対比的に考える。</p> <p>目標：①建築造形から建築に託された意図、意味を考える。 ②他領域のデザインと比較し建築造形のあり方を検討する。</p>					
学科の学修・教育目標との関係	建築設計者・技術者として必要な基礎知識を持っている。					
キーワード	建築、建築家、造形、デザイン					
授業の概要	<p>建築表現としての造形は時代を映す鏡である。そこに映し出された時代とは、時代の要請とは何かを検討する。歴史をひもとくと建築は、国家権力、実験精神、歴史解釈、ありとあらゆる要請が然るべき形に置き換えられてきた。国威掲揚を目指した建築造形から豊かなライフスタイルを提案する建築造形まで、建築造形の広がり、その意義を読み解く。</p>					
授業の計画	<p>第1回： 建築の造形を考える</p> <p>第2回： 神殿とオリンピックの競技場の造形</p> <p>第3回： 外国人建築家が発見した日本建築の造形</p> <p>第4回： 公共建築とポストモダンの造形</p> <p>第5回： 商業建築とポストモダンの造形</p> <p>第6回： 建築が作り出す光と影の造形</p> <p>第7回： ガウディの教会建築とモデルニスモの造形</p> <p>第8回： 中間試験</p> <p>第9回： 地域再生プロジェクトと建築の造形</p> <p>第10回： 建築見本市における住宅作品の造形</p> <p>第11回： ワイマール・バウハウスにおける建築の造形</p> <p>第12回： 住宅の造形、戦後日本の住宅作品 20 選</p> <p>第13回： 住宅の造形、20 世紀後半～21 世紀初頭の住宅作品</p> <p>第14回： 住宅の造形、ベネチア建築ビエンナーレと日本の住宅作品</p> <p>第15回： 全体のまとめ</p>					
受講条件・関連科目	<p>受講条件：建築史Ⅰの受講。</p> <p>関連科目：建築史Ⅰ、建築史Ⅱ、建築史Ⅲ</p>					
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義ではスライドを使用し、視覚的に理解できるように配慮する。 ・毎回小課題を課し、講義内容の理解度を深める。 					
テキスト・参考書	必要なプリントをその都度配布し、参考図書を紹介する。					
成績評価	・中間試験 (40%)、中間レポート (20%)、期末レポート (40%)。					
履修上の注意						